

東京都立多摩総合医療センター麻酔科専門研修プログラム

(東京都立多摩総合医療センター施設群 東京医師アカデミー麻酔科専門研修プログラム)

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは「東京医師アカデミー」の麻酔科コースの一部門である。東京医師アカデミーとは、都立病院・公社病院が一体となって提供する後期臨床研修システムのことであり、各病院の特色を生かし、臨床を重視した質の高い医師の育成を行う。都立・公社病院の総病床数は7,200床であり、このスケールメリットを最大限に活用できるように病院間連携を行って研修を行う。

専門研修基幹施設である東京都立多摩総合医療センター、専門研修連携施設Bの東京都立小児総合医療センター、東京都立駒込病院、東京都立広尾病院、東京都立大塚病院、東京都立墨東病院、東京都立神経病院、東京都保健医療公社荏原病院、東京都保健医療公社豊島病院、東京都保健医療公社東部地域病院、東京都保健医療公社多摩北部医療センター、東京都保健医療公社多摩南部地域病院等の都立・公社病院の他に東京医科歯科大学医学部附属病院、国立成育医療研究センター、聖路加国際病院、静岡県立こども病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、埼玉医科大学病院、埼玉医科大

学国際医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、愛育病院においても研修が可能である。

本専門研修プログラムは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

本研修プログラムの修了者は、選考とポストの空き状況により都立病院・公社病院への就職の道が開かれている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の1年目は、多摩総合医療センターで全外科領域の麻酔研修を行う（一般麻酔研修，心臓麻酔研修，産科麻酔研修）を行う。
- 2年目は、小児麻酔研修を小児総合医療センターで研修を行う。
- 機構認定研修プログラムの定める経験症例数を2年間で達成する。
- 原則3年目以降他部門（神経麻酔，ペインクリニック，緩和医療，救命救急，集中治療など）の研修を行う。神経麻酔は神経病院，緩和医療は駒込病院または豊島病院，ペインクリニックは荏原病院，救命救急は多摩総合医療センターまたは墨東病院での研修となる。集中治療の研修は東京医科歯科大学医学部付属病院、東京ベイ・浦安市川医療センターまたは聖路加国際病院での研修となる。小児麻酔の希望者は都立小児総合医療センターの他に国立成育医療研究センターや静岡県立こども病院でも研修ができる。
- 地域医療の維持のため，原則4年目に地域医療支援病院である東京都保健医療公社多摩北部医療センター、東京都医療公社多摩南部地域病院等で研修を行う。
- 3年目，4年目の院外研修は本人の希望やサブスペシャリティーを考慮してローテーションを構築する。

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	多摩総合医療センター	多摩総合医療センター，小児総合医療センター	多摩総合医療センター，小児総合医療センター，国立成育医療研究センター	多摩総合医療センター，静岡県立こども病院，多摩北部医療センター
B	多摩総合医療センター，	多摩総合医療センター，小児総合医療センター	多摩総合医療センター，連携施設	多摩総合医療センター，連携施設，多摩南部地域病院

週間予定表

東京都立多摩総合医療センターの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	抄読会 症例提示	症例提示	症例提示	休み	症例提示	休み	休み
	手術室	手術室	手術室	休み	手術室		
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：5608症例

本研修プログラム全体における総指導医数：10.4人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	100症例
帝王切開術の麻酔	464症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	75症例
胸部外科手術の麻酔	259 症例
脳神経外科手術の麻酔	194症例

① 専門研修基幹施設

東京都立多摩総合医療センター（以下、都立多摩総合医療センター）

研修実施責任者：貴家 基

専門研修指導医：貴家 基（麻酔）

山本博俊（麻酔，心臓血管麻酔）

肥川義雄（麻酔，ペインクリニック）

阿部修治（麻酔，ペインクリニック）

田辺瀬良美（麻酔，産科麻酔）

渡邊 弘道（麻酔，緩和）

松原 珠美（麻酔）

稲吉 梨絵（麻酔）

高田 眞紀子（麻酔，心臓血管麻酔）

伊藤 紘子（麻酔，小児麻酔）

専門医： 藤井 範子（麻酔）

本田 亜季（麻酔）

麻酔科認定病院番号：89

特徴：当院は都立府中病院から全面改築移転し、都立小児総合医療センターが同じ建物して開設され、両院合わせて1,350床の病院群として出発した。救命センターを含む東京ER・多摩（総合）を開設し、小児総合医療センターが担う東京ER・多摩（小児）と連携しながら、新生児から高齢者まであらゆる救急疾患に対応できる体制を取っている。

また多摩地域における唯一の総合的な医療機能を持つ都立病院として、11の重点医療を定めて高度専門医療を実施している。その中でも救急医療、がん医療、周産期医療を三本柱として重視している。

当院麻酔科の業務内容は定時手術麻酔管理、手術室運営、外来・病棟におけるペインクリニック診療、ERおよび救命救急センターからの緊急手術の対応である。上記の当院の特徴から多数の外科系診療科がまんべんなくそろっており、それぞれ活発に手術を行っていることから症例は豊富でバラエティに富んでいる。緊急手術特に産科の緊急手術が多いのが当院の特徴である。麻酔科学会指導医・専門医がシニアレジデントの教育をマン・ツー・マンで行っている（麻酔科標榜医取得まで）。

また当院では臨床研修の充実に取り組んでおり、カンファレンスや講演会は頻繁に開かれている。図書室にはClinicalkey, ScienceDirect, UpToDateをはじめとしてonlineで読める雑誌や書籍が豊富にあり、自学自習する環境が整っている。

麻酔科管理症例数 5532症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	464症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	75 症例
胸部外科手術の麻酔	259 症例
脳神経外科手術の麻酔	194症例

② 専門研修連携施設B

1：東京都立小児総合医療センター（以下、都立小児総合医療センター）

研修実施責任者：西部 伸一

専門研修指導医：西部 伸一（小児麻酔、心臓血管麻酔、区域麻酔）

山本 信一（小児麻酔、心臓血管麻酔、区域麻酔）

宮澤 典子（小児麻酔、ペインクリニック）

北村 英恵 (小児麻酔)
専門医 神藤 篤史 (小児麻酔)

麻酔科認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、心の診療を提供している。

年間麻酔管理件数の6割が6歳未満小児症例であり、一般的な小児麻酔のトレーニングが可能なことに加えて、

全体の約3割の1200件に区域麻酔を実施しており、超音波エコー下神経ブロックを指導する体制が整っている。

麻酔科管理症例 3948 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	100症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

2：東京都立駒込病院（以下、都立駒込病院）

研修実施責任者：佐藤 洋

専門研修指導医：佐藤 洋（麻酔、ペインクリニック）

鈴木尚生子（麻酔、ペインクリニック）

木村光兵（麻酔、ペインクリニック）

佐藤和恵（麻酔）

田島明子（麻酔）

専門医：大橋 薫（麻酔）

松岡 芙美（麻酔）

麻酔科認定病院番号：146

特徴：当院はがん専門病院であるため、基本的にはがん患者の手術における術前評価および術中術後管理が研修の中心となる。外科系各科の高度専門手術や緊急手術に対して安全な麻酔管理を提供できる能力を育成する。当院に診療科のない心臓血管外科、産科、小児外科などの麻酔管理は専門研修連携施設での研修を加

えて、より専門的な知識と経験を得られるようにしている。また、麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修（緩和ケア診療）などを行える環境を整えている。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・くも膜下脊髄麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の特種麻酔を担当医として経験する。

- ・胸部外科手術の麻酔 呼吸器外科手術、食道外科手術など
- ・脳神経外科手術の麻酔 覚醒下脳腫瘍摘出術など
- ・整形外科の麻酔 脊髄腫瘍、術中照射の麻酔
- ・泌尿器科の麻酔 ミニマム創内視鏡手術

麻酔科管理症例 3629 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

3：東京都立広尾病院（以下、都立広尾病院）

専門研修指導医：羽深鎌一郎（麻酔，救急医療）

金子 祐子（麻酔，ペインクリニック）

城川雅光（麻酔，救急医療）

専門医：秋山 絢子（麻酔）

亀田 和夏子（麻酔）

長島 佳代（麻酔）

中川 健（麻酔）

麻酔科認定病院番号：213

特徴：救命救急センターを含む「東京ER・広尾」を運営し、地域中核病院である。救急医療のローテーションが可能である。

麻酔科管理症例数 2496 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例

帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

4：東京都立大塚病院（以下，都立大塚病院）

研修実施責任者：島田宗明

専門研修指導医：島田宗明

新井多佳子

小林みどり

専門医： 斎藤 郁恵

斉藤 理絵

麻酔科認定病院番号：472

特徴：総合周産期センターを併設しているため、一般的な麻酔管理に加えて産科麻酔や新生児・小児麻酔の経験が可能である。またペインクリニック研修やICU研修を行える環境を整えている。なお当院に診療科のない心臓血管外科のほか、小児麻酔についても専門研修連携施設での研修を行い、より専門的な知識と経験を得られるようにしている。

麻酔科管理症例数 2669 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

5：東京都立墨東病院（以下，都立墨東病院）

研修プログラム統括責任者： 鈴木健雄

専門研修指導医： 鈴木健雄（麻酔、ペインクリニック）

田川京子 (麻酔、ペインクリニック)
 高橋英督 (麻酔)
 三上久美子 (麻酔、ペインクリニック)
 佐藤千穂子 (麻酔)
 高田朋彦 (麻酔)
 永迫奈己 (麻酔)
 後藤尚也 (麻酔)
 専門医： 平野敦子 (麻酔、ペインクリニック)
 千田麻里子 (麻酔)
 桐野若葉 (麻酔)
 永村陽子 (麻酔)
 河村尚人 (麻酔)
 吉村敦 (麻酔)
 益田友里 (麻酔)

麻酔科認定病院番号 第26号

特徴：救命救急センターを含む「東京ER・墨東」を運営し、周産期母子医療や精神科救急医療など救急医療のセンター的機能を担う地域中核病院である。

ほぼ全ての診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できる。

緊急手術が多く、救急診療における麻酔管理を学べる。

ペインクリニック研修が行える。

麻酔科管理症例数 4306 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

6：東京都立神経病院（以下、都立神経病院）

研修実施責任者：又吉宏昭

専門研修指導医：又吉宏昭

福田志朗

三宅奈苗

麻酔科認定病院番号：1056

特徴： 当院は脳脊髄機能外科を中心とした手術を行っている。てんかん手術、神経血管減圧術（三叉神経痛、顔面けいれんなど）、聴神経鞘腫、脊髄腫瘍、など脳神経モニタリングを行う手術の麻酔が多いことが特徴である。またペインクリニック研修、集中治療研修も行える環境を整えている。

麻酔科管理症例数 321 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

7：公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院（以下、荏原病院）

研修プログラム統括責任者：米良仁志

専門研修指導医：米良仁志（麻酔，ペインクリニック）

橋本 誠（ペインクリニック）

加藤隆文（麻酔，ペインクリニック）

生方祐介（麻酔）

小寺志保（麻酔）

中村繭子（麻酔）

専門医： 須賀大樹（麻酔）

中島 愛（麻酔）

竹口蘭（麻酔）

麻酔科認定病院番号 792

特徴； 当院には総合脳卒中センターがあり地域の急性期の脳血管疾患医療の中核となっている。脳神経外科の他，ほぼ全ての診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できる。緊急手術も多く、救急診療における麻酔管理を学べる。

当院に診療科のない心臓外科、小児外科などの麻酔管理は専門研修連携施設で研修を行いより専門的な知識と経験を得られるようにしている。ペインクリニックは毎日行っており充実した研修ができる。緩和ケアチームの研修も行える。

麻酔科管理症例数 1690 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

8：公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院（以下、豊島病院）

研修実施責任者：吉岡斉

専門研修指導医：吉岡斉（麻酔、ペインクリニック）

吉川 晶子（麻酔、ペインクリニック）

小出博司（麻酔）

専門医：小川敬（麻酔）

篠崎正彦（麻酔）

吉永 惇一（麻酔）

麻酔科認定病院番号：899

特徴：都北西部の地域医療を担う施設。ペインクリニックと緩和医療のローテーションが可能である。

麻酔科管理症例数 2302 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

9：公益財団法人東京都保健医療公社 東部地域病院（以下、東部地域病院）

研修実施責任者：本山慶昌

専門研修指導医：本山慶昌（麻酔、ペインクリニック）

浦里裕子（麻酔）

専門医： 森かおり（麻酔）

麻酔科認定病院番号：659

特徴：当院では、がん治療をはじめとした高度専門医療から、二次救急、まで多岐にわたる豊富な症例を経験できる。さらに他院研修として、小児麻酔専門研修など専門的な知識と経験を得られるようにしている。また、麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修などを行える環境を整えている。

東部地域病院、関連研修施設の都立墨東病院、都立小児総合医療センター、都立駒込病院、都立広尾病院、都立大塚病院、都立多摩総合医療センター、都立神経病院、公社荏原病院、公社豊島病院、公社多摩北部医療センター、順天堂大学附属順天堂医院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科管理症例数 1768 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

10：公益財団法人東京都保健医療公社 多摩北部医療センター（以下、多摩北部医療センター）

研修実施責任者：河野麻理

専門研修指導医：河野麻理

霜鳥久

石橋 桜子

麻酔科認定病院番号： 437

特徴：当院は前身の「多摩老人医療センター」時代から長年にわたって培ってきた高齢者医療の経験があり、平成17年に現在の「多摩北部医療センター」となり対象年齢が小児まで拡大してからも、依然として高齢者の症例が数多くある。平成18年に地域医療支援病院に認定、さらに東京都指定2次救急医療機関に指定されており、休日、夜間の救急医療にも力を入れている。

大学病院や他の大病院のような難しい症例は少ないが、基本的な症例を数多く経験することができ、場数を踏むことで自分なりの課題や問題点を見出すことができると考えている。

麻酔科管理症例数 1446 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

11：公益財団法人東京都保健医療公社 多摩南部地域病院（以下、多摩南部地域病院）

研修実施責任者：福島 祐二

専門研修指導医：福島 祐二（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1531

特徴：地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 1552 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

12：東京医科歯科大学医学部附属病院（麻酔科認定病院番号：15）

研修プログラム統括責任者：内田篤治郎

専門研修指導医：内田篤治郎（麻酔）

倉田二郎（麻酔、ペインクリニック）

舩田昭夫（麻酔、ペインクリニック）

田中直文（麻酔）

南浩太郎（麻酔）

伊藤裕之（麻酔）

専門医：山本寛人（麻酔）

大森敬文（麻酔）

篠田健（麻酔）

深川亜梨紗（麻酔）

伊藤雄介（麻酔）

竹本彩（麻酔）

石橋智子（麻酔）

木戸浩司（麻酔）

山本雄大（麻酔）

塩田修玄（集中治療）

片平舞（集中治療）

丸山史（集中治療）

増田孝広（集中治療）

特徴：心臓手術・胸部外科手術をはじめとする専門医研修プログラムにおける特殊麻酔症例が豊富に経験でき、近年、帝王切開の件数も増加している。また、再建を伴う頭頸部外科手術症例や頸椎手術の症例も豊富なことから、気道管理を学ぶ上でも症例が豊富である。整形外科や形成外科における超音波ガイド下の末梢神経ブロック症例も定着してきており、研修の機会が十分に確保されている。ICUおよびペインクリニックの研修も可能。

麻酔科管理症例数 5,370 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

1 3 : 国立成育医療研究センター (麻酔科認定病院番号 : 87)

研修実施責任者 : 鈴木康之

専門研修指導医 : 鈴木康之 (麻酔・集中治療)

田村高子 (麻酔・緩和医療)

糟谷周吾 (麻酔)

遠山悟史 (麻酔)

佐藤正規 (麻酔)

蜷川 純 (麻酔)

専門医 : 山下陽子 (麻酔)

山田美紀 (麻酔)

行正 翔 (麻酔)

横山良太 (麻酔)

古田真知子 (麻酔)

施設の特徴

- ・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）および周術期管理を習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- ・小児肝臓移植（生体、脳死肝移植）、腎移植の麻酔、周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる。
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

麻酔科管理症例数 5,164症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

1 4 : 聖路加国際病院 (麻酔科認定病院番号 : 249)

研修実施責任者 : 長坂安子

日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：

長坂安子
橋本 学
藤田信子
清水美保
佐久間麻里
林 督人
菅波 梓
篠田麻衣子
篠浦 央

専門医：

中井川直子
林 怜史

施設の特徴

聖路加国際病院の手術室は 14 室あり、心臓外科、小児外科、胸腹部、脳神経、無痛分娩、また先端医療（TAVI、ダヴィンチ手術など）も含めた、幅広い症例が経験できます。米国での麻酔臨床業務経験者もおり、世界標準の麻酔を提供し、該当者には留学への指導も行っています。

挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられます。

麻酔科管理症例数 6,337症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	230症例
帝王切開術の麻酔	391症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	187症例
胸部外科手術の麻酔	127症例
脳神経外科手術の麻酔	191症例

15：静岡県立こども病院

研修プログラム統括責任者：奥山克巳

専門研修指導医：奥山克巳（麻酔）

梶田博史（麻醉）
 専門医： 渡辺朝香（麻醉）
 石田千鶴（麻醉）

麻醉科認定病院番号：183

特徴：術前から患児の不安を取り除く配慮や、術後鎮痛への十分な配慮を経験できる。
 術中術後鎮痛のため積極的に脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロックを行っている。
 さらに新生児手術、心臓血管外科手術も多数経験可能。

麻醉科管理症例数 2835症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

16：東京ベイ・浦安市川医療センター（麻醉科認定病院番号：1612）

研修実施責任者；小野寺英貴

専門研修指導医：小野寺英貴（麻醉）

特徴：地域医療に根差した救急医療の拠点として、高齢者医療・救急医療・小児医療・周産期医療に重点を置いた診療を特徴としている。結果として特に心臓血管外科、小児救急、整形外科、一般外科・産婦人科の症例が多くなっている。研修においては、経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)や、完全鏡視下低侵襲心臓手術(MICS)、閉鎖デバイスを用いた経カテーテル心房中隔欠損閉鎖術などを含めた心臓血管外科と、整形外科領域での末梢神経ブロックを用いた周術期管理を中心に研修を行っている。

麻醉科管理症例数 2,786症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例

心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

17：埼玉医科大学病院（以下、大学病院）

研修実施責任者：長坂 浩（診療部長、教授）

専門研修指導医：松本延幸（麻酔，ペインクリニック）

長坂 浩（麻酔，ペインクリニック）

松本延幸（麻酔，ペインクリニック）

井手康雄（麻酔，ペインクリニック）

中山英人（麻酔，集中治療）

岩瀬良範（麻酔，集中治療）

前山昭彦（麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号：84

特徴：埼玉医科大学病院の目標は、1. 特定機能病院として、先進性があり、高度の技術と安全性に裏付けされた、質の高い医療を提供すること、2. 教育病院として医学生や若手医師の教育を担う病院であること、3. 地域密着型のどんな病気にも対応できる総合病院であること、である。本研修プログラムもこの目標に基づいて策定した。

豊富な症例数に対して、いかにして上記の目標を達成するかが、専攻医と研修指導医の責務である。多忙な日常が予想されるが、常に適切なワークロードに配慮しながら、心身ともに健全な専門研修プログラムの実践を行いたい。

ペイン、救急医療のローテーション可能

麻酔科管理症例 4528症例 2017/4/1～2018/3/31

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

18：埼玉医科大学国際医療センター

研修実施責任者：北村 晶(副院長、診療部長)

指導医：北村 晶 (教授)

磨田 裕 (教授)

西部 伸一(教授)

有山 淳 (准教授)

辻田 美紀(講師)

古市 昌之(助教)

専門医：市川 ゆき(助教)

今西 宏和(助教)

吉川 博昭(助教)

寺尾 和久(助教)

酒井 大輔(助教)

麻酔科認定病院番号：1316

麻酔科管理症例 5314 症例 (2014/4/1 ~ 2015/3/31)

	症例数
小児(6歳未満)の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

19：埼玉医科大学総合医療センター

プログラム責任者：小山 薫

指導医：小山 薫

照井 克生

鈴木 俊成

田村 和美

山家 陽児

専門医：加藤 崇央

松田 祐典

成田 優子

皆吉 寿美

加藤 梓

大浦 由香子

野本 華子

北岡 良樹

麻酔科認定病院番号：390

麻酔科管理症例 6,478症例

	症例数	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	302症例	0症例
帝王切開術の麻酔	605症例	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	96症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	230症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	397症例	0症例

20. 愛育病院

プログラム責任者：新原 朗子

指導医：新原 朗子

伯水 崇史

中川 元文

専門医：伊藤 雄介

羽鳥 薫

竹口 蘭

麻酔科認定病院番号：1685

麻酔科管理症例数 2458症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例

胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

特徴

- 1) 麻酔科常勤医師 6 名(全員専門医以上)
- 2) 分娩件数:約 3000 件/年、無痛分娩：約 1300 件/年、帝王切開：600-700 件/年。
- 3) 分娩 24 時間体制で無痛分娩を行っております。麻酔分娩を成功させるには、産科医師・助産師・新生児科医師との意見交換と協力体制が不可欠です。分娩についての理解を深め、麻酔科医として安全で痛みのない分娩に貢献できる技術を身につけていただけます。
- 4) 産科危機的出血に関わる機会があります。
- 5) 婦人科手術（腹腔鏡下・開腹）を行っております。
- 6) 様々な国籍の患者様がいらっしゃいます。

5. 募集定員

3名

(※募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない)

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2017年10月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、東京都立多摩総合医療センターホームページ、東京都医師アカデミーホームページ、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

東京都立多摩総合医療センター 麻酔科 部長 貴家 基

東京都府中市武蔵台 2-8-29

TEL 042-323-5111

E-mail motoi_sasuga@tmhp.jp

Website www.fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp/

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。症例経験に関する学会発表を経験する。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理を指導医の指導のもと、安全に行うことができる。小児手術の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。症例経験に関する学会発表を経験する。

専門研修 3 年目

基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。症例経験や臨床研究の学会発表や論文作成を行う。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。症例経験や臨床研究の学会発表や論文作成を行う。

多摩総合医療センターでは、毎日の症例カンファレンス、毎週月曜日に麻酔関連ジャーナルの抄読会を行っている。毎週木曜日には全診療科が持ち回りで担当する Mornig Journal Club という抄読会がある。不定期に院内・院外講師による勉強会や講演会が頻繁に行われている。

毎年開催される麻酔科学会学術集会、関東甲信越・東京支部合同学術集会などに学会発表をするよう指導している。また臨床研究を奨励しており、臨床研究部から臨床研究や統計に関する講演会の案内、科研費の申請、英文校正の依頼など臨床研究のサポートが得られる。

図書室にはClinicalkey, ScienceDirect, UpToDateをはじめとしてonlineで読める雑誌や書籍が豊富にあり, 院内LANを使って自分のパソコンでアクセスできる. また医療安全, 感染管理, 災害, 情報セキュリティ, 接遇などの研修が定期的に行われている.

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録: 専攻医は毎研修年次末に, **専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック: 研修実績記録に基づき, 専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し, **研修実績および到達度評価表, 指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う. 研修プログラム管理委員会は, 各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し, 専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において, 専門研修4年次の最終月に, **専攻医研修実績フォーマット, 研修実績および到達度評価表, 指導記録フォーマット**をもとに, 研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて, 各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識, ②専門技能, ③医師として備えるべき学問的姿勢, 倫理性, 社会性, 適性等を修得したかを総合的に評価し, 専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する.

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標, 経験すべき症例数を達成し, 知識, 技能, 態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である. 各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において, 研修期間中に行われた形成的評価, 総括的評価を元に修了判定が行われる.

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は, 毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い, 研修プログラム管理委員会に提出する. 評価を行ったことで, 専攻医が不利益を被らないように, 研修プログラム統括責任者は, 専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある.

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 集合研修の実施

本プログラムでは、都立病院・(公財)東京都保健医療公社病院が基幹施設となっている全領域の専門研修プログラムと合同で、集合研修を実施する。

1 災害医療研修 (1年次)

- 災害医療の基礎概念を理解する。
- 災害現場初期診療，救護所内診療，搬送等を想定して，実践的な訓練を行う。

- ・ 災害現場での手技を修得する.
- 2 研究発表会 (2 年次)
 - ・ 臨床研修, 研究成果を学会に準じてポスター展示と口演により発表する.
- 3 3 年次 4 年次集合研修
 - ・ 3 年次 4 年次に相応しい研修テーマを年度毎に選定して実施する.

15. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には, 地域医療支援病院としての多摩北部医療センター, 多摩南部地域病院など幅広い連携施設が入っている. 医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し, 適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため, 専攻医は, 大病院だけでなく, 地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い, 当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

16. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤的非常勤職員として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる. 専攻医の就業環境に関して, 各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする. プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備, 労働時間, 当直回数, 勤務条件, 給与なども含む)の整備に努めるとともに, 心身の健康維持に配慮する.

年次評価を行う際, 専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い, その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する. 就業環境に改善が必要であると判断した場合には, 当該施設の施設長, 研修責任者に文書で通達・指導する.